

科目	文学				
時間数	1 単位 15 時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	⑤内田 泉				
ねらい	優れた文学作品の読解鑑賞を通して、看護を担うにふさわしい人の痛みの分かる豊かな感性や強い意志、高い倫理観を養い、自分の「死生観」(いかに生き死ぬか)を持てるよう考えを深める。 「いのち」を預かる者として真摯に人の死と生に向き合い、その尊厳を守る姿勢を育てる。 他者の思いに耳を傾け、読み取る姿勢を育て、自分の考えや思いを的確に述べ、書く力を養う。				
目標	1 死と生に関する文学作品を読み、自分の体験だけでは知り得ないさまざまな死を前にした人の思いを知り、自分自身の生と死について考える。 2 作品の時代や社会背景、歴史にも関心を持ち、今を生きる自分の課題について考えていく。 3 優れた文学表現に触れ、他者の思いを読み取り汲み取る力を育てるとともに、自分の考えを文章あるいは口頭で発表する表現力を養う。クラスメートの意見を読み、聞き、また関連作品を読むことで、自分の考えを深める。				
授業計画					
回	内容				
1	1 ガイダンス シラバス説明 日野原重明「私が人生の旅で学んだこと」(事前に配布課題プリント1)看護学生が「文学」を学ぶ意味を理解する。今後①自分が目標とする看護・看護師像について考えを深めていく。				
2	2 テキスト1 評論「死ぬことと生きること」(土門拳)を読み、②著者の愛児を亡くした悲しみとそれを契機に深まった死生観を読み取り(読解課題プリント2)、それについて自分はどうか考えるか、自分の今の死生観(「死」についてどう考え、これからどう生きていきたいか)を書く。				
3	3 発展 愛する人を亡くした悲しみの詩歌(プリント)を鑑賞しグリーフケアについても考える。 「無人島のふたり」等の闘病記を読み、著者の自分の死を前にした思いについて考え、感想を書く。自分が余命宣告されたらどう生きたいかについても考えてみる。 田村恵子「がん看護の現場から」を読み、筆者の死生観を読みとりまとめ、看護師が自分の死生観を持つ必要について考え、自分の感想意見を書く。				
4	4 死や死別の悲しみをテーマにした優れた絵本を読み(別紙紹介 自分の選んだ本でもよい)、それぞれの作品の死生観、グリーフケア、悲しみにどう寄り添うかについても考え感想意見を書き、発表し、話しあう。				
5	5 テキスト2 近代詩「仮纏帯所にて」(峠三吉)を読み、作者の悲しみ、原爆(核兵器)への怒りを読み取る。 発展 他の原爆文学作品(特に戯曲井上ひさし「父と暮せば」、写真集「ヒロシマ消えた家族」等)も読み、核廃絶・平和を守るために私達一人ひとりがすべきことしなければならないことについて考え、意見文を書き、クラスで話し合う。 発展 土門拳の写真(若き看護婦の肖像、出征する日赤看護婦、ヒロシマ)、梯久美子「百年の手紙」従軍看護師の戦地からの手紙、「戦争は女の顔をしていない」等別紙紹介本、近代の反戦詩歌(プリント)等を読み戦争と平和命について考える。				
6	6 テキスト古典4「方丈記」『養和の飢饉』を災害文学として読み、時代社会背景を理解し、鴨長明の思いを読み取る。人として、将来の看護師として、大災害やパンデミックなどの危機に直面した時どうありたいか、あるべきか、自分の生き方について考え、今の自分の死生観を書き、クラスで読み合い、考えを深める。				
7~8	7 まとめ				
評価方法	①感想文(テキスト以外の紹介本や、自分が選んだ作品の感想も含む)・意見文・課題プリント(予習も含む)等の提出物の評価 ②授業態度(出欠・発表態度等)の評価 を総合評価する。 必要に応じて漢字・語彙・表現表記の小テスト(またはそれに代わる課題プリント)を行い、成績に加える。				
教科書	大河原忠蔵編著「看護師教養講座国語」 他資料プリントを配布				